

6月30日（金）、4年2組で道徳科の努力点公開授業が行われました。
題材は「大切な命」です。

初めに、教師が児童に「命って大事だなんて考えたことありますか」と問い掛けました。すると、ペットを飼っている数人の児童から、命についての話が聞かれました。そして「一人一人の命は、なぜ大切なのでしょう」という学習のめあてを確認しました。



【児童とやり取りをする様子】

次に、教師が資料「生きているしるし」の読み聞かせをしました。所々で話を切り、挿絵を基に登場人物の気持ちを考えさせました。主人公のちえ子が、生まれたばかりの妹を見た場面では、「しわくちゃで泣いてばかりだな」「私に似ていてかわいいはずなのに」と、児童は想像しました。その後、ちえ子が予定日より2か月早く生まれたときの父と母、病院の人たちの様子を児童に聞くと、「お医者さんが『頑張りましょう』と励ましていた」「看護師さんが何度も見に来てくれた」「お母さんは見守っていた」と、ちえ子が周りの人に支えられていたことに気付くことができました。

そして、もう一度赤ちゃんを見たちえ子の気持ちを考えました。そして、そのときのちえ子の表情を児童に表現させました。その中で、代表児童3人に、みんなの前で表現させました。児童は笑顔で（元気でいいね）、ガッツポーズを付けて（頑張ったね）という気持ちを表現することができました。



【気持ちを表情で表現する児童】

最後に、教師が「この後、ちえ子は妹に対してどういうことをしたいと考えるだろう」と投げ掛けました。児童はグループで話し合いました。児童からは、「お母さんが私にしてくれたことを妹にもしてあげたい」「看護師さんやお医者さんが応援してくれたから、今度は私が応援したい」という発言がありました。さらに、どうして命が大切なのかを考えさせたところ、「頑張ってお母さんが生んでくれたから」「みんなの支えがあって生まれるから」「一つの命にいろいろな人の頑張りがつまっているから」という発言があり、児童は命の大切さに気付いた様子でした。



【グループで話し合う様子】

グループで話し合いをさせるには、児童一人一人に考えをもたせる必要があります。道徳科の学習では、登場人物の気持ちを考える場面が多いです。その際、挿絵を使ったり、登場人物に成り切って演じさせたりして、考えをもたせることがあります。特に、今回の授業のような「命」を扱う授業では、丁寧な授業展開が必要となってきます。このように、「話すこと・聞くこと」に重点を置いた授業では、話し合いの前段階での手立てが大切なのです。